

浅間山ジオパーク推進協議会 事務局員

本多 力斗 氏

石像が伝えるかつての文化

私は大学で考古学を専攻し、メキシコのエル・マナティ遺跡で発掘調査に携わっていました。古代オルメカ文明は、マヤやアステカの礎となった「母なる文明」です。聖地であるその遺跡からは、頭部を変形させた子供の頭蓋骨や木製胸像、儀式の様子を模した石像やヒスイ製の遺物が出土します。当時の人々にとって、生け贄や石像を捧げることは神々への献身であり、遙か古代のメキシコにおいて石に刻まれた姿は異彩を放つ強い祈りの形だったのでしょ。縁あって孺恋村で暮らすようになり、まず気になったのが村の至るところに佇む「道祖神」の多さでした。集落の入り口や辻に立つ石像たちは、メキシコで目にしてきた異質な石像とは趣がまるで異なります。厄災から村を守る魔除けでありながら温かみがあり、人々の暮らしを見守る身近な存在として地域に溶け込んでいました。オルメカ文明の石像と日本の道祖神。一つの「石像」をとっても、そこに含まれる意味合いや背景にある世界観、文化的役割には大きな隔たりがあります。考古学のレンズを通してこの地を見ると、日常の風景や大地そのものが、かつて生きた人々の営みと重なって見えてきます。太平洋の向こうで古代の祈りに触れた経験があるからこそ、孺恋で息づく人々と自然、歴史の結びつきの深さに日々心を動かされています。この地で暮らす喜びを感じながら、人が紡ぐ豊かな物語をこれからも見つめ、後世へと伝えていきたいです。



孺恋村文化財保護審議会委員
広報・観光委員/浅間山北麓ジオパーク認定ガイド

下谷 通 氏

貴重な「勝軍地蔵」

武具を付けて馬にまたがったいかめしい姿の像。これが勝軍地蔵とよばれていて、珍しいこの像は各地で大事に祀られています。勝軍地蔵の始まりは武士が隆盛した鎌倉時代からだといわれます。悪事や戦いを制する地蔵なので武士達の信仰を集めてきました。本貫地は京都の愛宕神社で、ここのご本尊が勝軍地蔵。火災予防としても名高い。大笹村に祀られたこの地蔵は、多くの武士たちが大笹村に定着し、信仰を残してきた歴史を物語っています。



富蔵観音碑

これは馬にかかわる碑で孺恋村各地区に8カ所ほどあります。馬の供養といえば馬頭観音でお馴染みですが、この富蔵観音碑は馬の本尊「馬頭観世音菩薩」を祀る信州筑北村の岩殿寺へ集落ごとに講を立てて参詣したしるしに建立したものです。祈祷してお札を持ち帰ると、お札は馬屋に貼られて馬の神様を崇め、馬を大切にしたい人々の思いが伝わります。写真は袋倉地区に残る富蔵観音碑です。



あさまびと

A S A M A - B I T O

地域の成り立ちから、地球の成り立ちを知る

SDGs × ASAMA

2026
秋号

Vol.38



特集：貴重なものの再発見：石仏・石碑



「長野原町：滝沢観音堂跡 脱衣婆」

アンケートに答えると毎号5名様に
ハンドブック（非売品）が当たる！



アンケートはこちら

秋のイベント情報！

10月11日	鎌原観音堂周遊マルシェ	鎌原観音堂周辺
10月18日	角間山トレッキングツアー	角間山
11月7日	吾妻溪谷ツアー	吾妻溪谷
12月上旬	浅間山北麓ジオパーク 10周年記念フォーラム	サーラ孺恋

発行：浅間山ジオパーク推進協議会
Mt. Asama Geopark Promotion Council
制作担当：広報・観光委員会
〒377-1524 群馬県吾妻郡孺恋村大字鎌原494-45
TEL/FAX：0279-82-5566
URL：www.mtasama.com
E-mail：info@mtasama.com

ガイドの受付しています

「浅間山北麓ジオパークガイドの会」の認定ガイドによる案内の受付をしています。ご希望の方は、左記、推進協議会事務局までお申し込みください。

【料金】＊ガイド1名あたりの値段

平 地：半日6,600円 1日13,200円（参加者11名以上ガイド2名）

軽登山：半日11,000円 1日16,500円（参加者8名以上ガイド2名）

登 山： 1日27,500円（参加者8名以上ガイド2名）

公式HP



貴重な物再発見シリーズの第三弾秋号で取り上げるのは石仏・石碑です。石仏は人々の救済極楽往生、五穀豊穰などの祈願や信仰のため、石碑は出来事や功績を後世に伝えるため、または目印のために建立されたものです。この地域には石仏群や道しるべとしての石碑、道祖神、馬頭観音等が数多く見られます。身近にあっても、なかなか気付かず見逃してしまうことが多いものです。何故そこに置かれているのか探りながら見てみると、古人の思いがきっと伝わってきますよ。

魅力あふれる石造物

日本の石仏・石碑は飛鳥時代（7世紀後半頃）から作られ始め、街道の整備と庶民信仰が広がった江戸時代に今見られるものの約8割が作られました。この地域でも、上州と信州を結ぶ鳥居峠越えの街道が整備されたことと、天明3年（1783年）の浅間山大噴火による犠牲者の供養や村の復興、そして防災、鎮火を祈願して多くの石仏・石碑が造られました。数ある石仏・石碑の中から、代表的なものをご紹介します。



① 滝沢観音堂跡

三原郷三十四番観音札所の結願所で、江戸～明治期の石仏約80体が自然の岩肌に沿って並ぶ姿は圧巻です。足を踏み入るとひんやりとした空気に包まれ、異界の趣があります。江戸時代後期に作られたと考えられる、地獄で亡者の衣を剥ぐ脱衣婆の石仏も残り、当地では“心の垢を落とし観音へ導く象徴”として祀られてきました。



② 丁杭観音（桜岩地蔵尊）

浅間山の噴火で道が不明瞭になった際、沓掛・大笹・草津へ向かう道しるべとして三十三観音が一丁ごとに並べられ、基点を含め百体に及びました。散在していた観音像は、現在は桜岩地蔵尊に集められ、自然の中で静かに佇んでいます。散在し不足した観音像は、地元有志の補作により今も百体が揃った姿で残されています。



③ 百体観音

東御市から嬬恋村の旧鹿沢温泉を結ぶ約12kmの湯道に、江戸末期から明治初期にかけて湯治客約500人の寄付により建立されました。道しるべ、道中の安全と病氣平癒の祈りを込めて一町（約110m）ごとに設置されました。1番の如意輪観音と百番の千手観音は信州高遠の名工中山暉雲が手掛けたもので美しい姿を残しています。現在も県道94号線（東御嬬恋線）沿いで旅人を見守り続けています。

編集委員の

イチ押し



④ 雪山讃歌碑 嬬恋村 鹿沢地区

「雪山讃歌」は、大正15年に鹿沢温泉の旅館で誕生しました。吹雪でスキー練習ができなかった京都大学山岳部員が部屋で作詞したもので、のちの南極越冬隊長・西堀栄三郎も参加していました。

⑤ 滝無不動尊の仁王像 長野原町 横壁地区

海のない地に祀られたことから名付けられた滝無不動尊にある仁王像は、短足で愛らしい姿。ハッ場ダム建設に伴う道路付替えて国道沿いへ移されました。

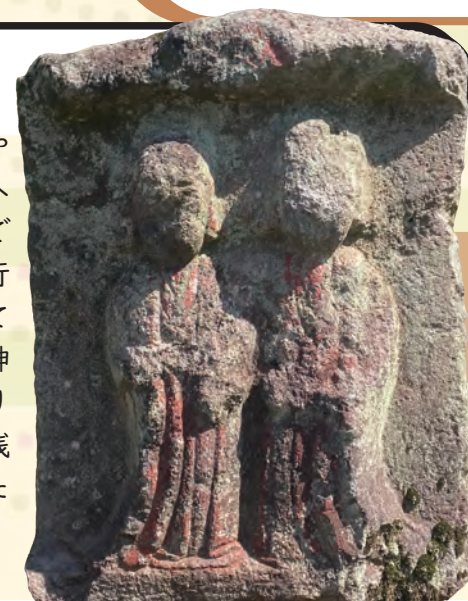


道しるべ

道しるべは、旅人が安全に行きたい目的地へ着けるよう、先人たちが建てた大切な道の目印です。交通や情報が限られていた時代には、人々の命や暮らしを支え、地域同士の交流や文化の発展にも役立ちました。その存在は、人をおもいやる心と多くの人々に行くべき道を示すことの大切さを教えてくれています。

道祖神

江戸時代の人たちは、村の入口や出口に道祖神を建てました。村へ悪い病氣や災いが入るのを防いでもらい、旅人が安全に目的地へ行けるようにつりました。そして村人の幸せも願いました。道祖神は村人の信仰を集め、通りすがりの人々の信仰をも深めました。浅間山山麓には、道祖神が道のかたわらに数多く建っています。



馬頭観音

馬頭観音には二つの側面があり、馬が草を食べる如く人を苦しめる煩惱や災難を食べつくす六観音の一尊である怒りの姿の観音菩薩と、馬が移動や農耕に不可欠だった時代、馬の安全や健康を守る神、あるいは死んだ愛馬の供養のための神仏として街道の交差点や農村のあぜ道にみられる石碑です。

